

# 令和4年度 豊中市総合計画審議会(第一部会) 第2回会議 議事要旨

- 【日 時】令和4年(2022年)10月7日(金)18時~20時
- 【場 所】豊中市役所第二庁舎3階大会議室またはZoomによるWEB会議
- 【出席者】大野委員、宗前委員、久委員、森委員、石井委員、森山委員
- 【事務局】都市経営部経営計画課：森田、坂本、田中、島、久木、松田
- 【傍 聴】1名
- 【案 件】1. 2022年度(2021年度実施分)政策評価結果の施策シートについて  
2. その他
- 【資 料】資料1 2022年度(2021年度実施分)政策評価結果  
参考1 第4次豊中市総合計画(本編)  
参考2 第4次豊中市総合計画(概要版)  
参考3 第4次豊中市総合計画前期基本計画 行政評価指針  
参考4 政策評価の考え方とチェックポイント
- 【会議録】下記のとおり

## ■開会

## ■成立要件の確認

### 事務局

審議会規則第7条第2項に基づき、会議の成立には委員の過半数の出席を必要としています。本日は委員総数6名のうち、すべての委員が出席いただいていますので、成立要件を満たしています。なお、本日、現時点で傍聴者はいらっしゃいません。

## ■資料の確認

## ■「1. 2022年度(2021年度実施分)政策評価結果の施策シートについて」

### 部会長

それでは案件に入りたいと思います。「2022年度(2021年度実施分)政策評価結果の施策シート」について事務局から説明をお願いします。

### 事務局

(資料1「2022年度(2021年度実施分)政策評価結果」について説明)

### 部会長

無理して今日全部という事ではありませんが、順調にいけば今日で終了させていただきたいと思えます。施策の方向性ごとに施策の方向性シートで評価しているものを更に抜き出して、施策シートで全体的に評価するという事になるので、このつながりがうまくいっているかどうかという事もしっかりと見ていただいてご意見賜ればと思います。それでは施策シート15ページ、方向性シー

ト 35 ページからになります「第 1 章-1 子育て支援の充実」についてご意見をお願いします。

#### 委員

問題のある記述があるわけではないのですが、切れめのなさというものをどう作っていくのか、例えばワンストップにしているとか、あるいは保健師をはり付けて担当保健師のような制度をつくっているなど、何でも良いのですが切れめのなさということを証明する取組みがあったほうが本当は良いと思いました。

また、必ずしも書けという意味ではないのですが、今年に入ってから出産の費用が非常にかかっているということが SNS 等で話題になっています。おそらく、市の責任というより、産婦人科の供給体制がひっ迫していることからだと思いますが、年度ごとの評価シートを書く場合には、例えば新たに生じてきた課題に対して、懸念材料だから市としてここまではやりましたというようなことを書いたほうが良いのではないかと思います。この話というのは、庁内で課題として捉えているのか、それともそこまで考えていないのか、教えてもらえますか。

#### 事務局

豊中市は出産前からの支援に注力していこうという事で、出産に係る費用に注目しています。今まで出産後とか育児の支援はありますが、出産前からのケアをどうしていくかというところで、今力を入れようとしているところです。

#### 委員

問題として挙がってきているのでしょうか。それとも豊中市民はなんとかできてしまうという感じでしょうか。

#### 事務局

具体的に金額は現課に確認しないといけないのですが、ただ一般的に、出産に係る費用が高騰しているというよりも、そのあたりのケアが今までは注目されていなかったということのほうがニュアンスとしては大きいと思います。

#### 委員

今は 80 万円がデフォルトだと聞いたりすると、これはただ事ではないなという感じがします。若い世代の 1 回のボーナスが飛んでしまうくらいの蓄えがないとなかなかしんどいということです。その時々課題が浮かび上がった時に、入れておいた方が良いのではないかと思います。

#### 部会長

全国的に支援が始まっています。その中で、豊中市は手厚いのかどうかというのは、比較すればわかります。自分たちが頑張ったか、頑張っていないか、成果が出ているか、出していないかということはしっかり書いてあるのですが、他市に比べてどうか加わってくると、より説得力が出てくると思いました。

## 委員

私も個人的に豊中市の取組みを知りたいなと思っているのは、出産育児一時金についてです。今まで妊婦検診というのは、市町村によって個別のサポートが行われているなかで、制度として充実してきたという流れがあると思いますが、今、国が行おうとしている出産育児一時金にプラスして、豊中市はさらにサポートを考えているのかどうかは非常に興味があります。

施策シートについてですが、上から2行目のところで、「産後ケア利用対象者の適切なケアの提供により育児不安を軽減しました」と書いてありますが、育児不安を軽減したという事は、すごく計りにくいものだと思います。それにつきまして、施策の方向性シートのほうで、どのあたりを根拠とされているのか見ていましたが、私としては上手く見つけることができませんでした。35ページの指標の2つ目「妊娠出産について満足している者の割合」から読み取れるのかなと思いましたが、微増はしているものというところで、育児不安の軽減をどんなところを根拠として書いているのか、もう少し明確なものが欲しいと思いました。

また、B評価の根拠としまして、「新型コロナの影響による社会情勢の変化」と書いてありますが、今後まだまだ不透明ではありますが、それが見えないからB評価というよりは、この一年の取組みの中で予定されていたものに対してどこまで出来て、また出来ていないからB評価だという書き方をしていただくと明確だと思いました。

## 部会長

施策の方向性シートに問題点という箇所があります。この中から特記すべき内容が、施策シートにうつされ、積み重なって、課題として残っているからB評価になったというのが本来の書き方だと思います。私が気づいたところでは、36ページの問題点の4つ目「男性の家事・育児に対する知識や方法」は、男性がまだここまでいけていないというのもひとつと思いますし、「休日保育・病児保育」のニーズにあわせて、まだまだ対応がし切れていないところがかなり問題点として残っているところではないかと思います。そういうところをうまく施策の方向性シートから抜き出して評価していただきたいということを担当課に投げ返していただければと思います。

## 委員

コロナの影響とってしまえば、他の全部に関わるわけで、他も全部B評価にしないとおかしいという事になるので、ここの文章は省いていただいたほうが良いのではないかと思います。全般に施策の方向性シートを読んだときに感じたのは、いろいろな仕組みや制度がありますが、それを充実させるとか、周知ができていない。それから、支援のさらなる強化をしていくべきだというところが課題と読めましたので、そういった言葉でまとめてB評価だというように書き表していただいたほうが良いと感じました。

あと理由の4つ目に「ひとり親家庭支援のため、公正証書等作成費用補助金等を創設」と書かれていますが、施策の方向性シートのほうには実績も書いてあり、具体的な数値が使えるのであれば、実績数値を入れたほうが説得力はありますし、どこまで成果がでているのかを読み取れますので、盛り込んでいただいた方が分かりやすいと感じました。

## 委員

総合評価の 5 個目に「南部の子育て相談支援体制」がありますが、「南部」という言葉を使う時に、それがどの程度読む人に伝わるのかが気になります。この会議の中や市役所の人だったら、庄内地域というのは分かると思いますが、「豊中市の南部」や「庄内近辺の」とか言葉を添えなくて良いのが気になります。また、施策の方向性シートでは「子育て支援センターほっぺ南部分室」という言葉が出てくるのですが、施策シートではあまり出てこないで、元々ほっぺはあるけれど、南部にも分室ができることで、豊中市全域で子育ての相談体制が強化されるという事が分かったほうが良いのではないかと思います。施策シートの書きぶりだと、豊中市としてはこれまでも取り組みをしているということが伝わってこないのではないかと感じました。B 評価という事に関しては、子育て支援というのは、これをやったから A 評価だというところが設定しにくいと思います。常に課題があって、常に子育て支援の対象となる人が変わっていくので、みんなが満足するとか、これだけやれば完璧だという事にはならないので、おそらくずっと B 評価だと思いますが、これは出来た、これが足りないというところははっきり書いていって、どう努力していくかということが伝われば良いと思います。

## 部会長

「(仮称) 南部コラボセンター」はまだ仮称ですが、固有名詞です。千里ニュータウンに全体のコラボセンターがあるので、南部ができたなら、北部コラボと南部コラボに分かれてやっていくと思いますが、今全域でカバー出来ているが、南部が出来ることによって地域分けが出来て、より充実を目指しており、今そこまでいけないけど、運営方針は決まったので一歩前進したと書いていただくと成果になります。書きぶり次第で分かりやすさをアップできると思いました。

語尾はきちんと成果あるいは課題ということが見える語尾にしてほしいと思っています。先ほど委員がご指摘のように、「運営方針を決定しました」というのは、Do のレベルの話です。これを成果のように書き直して欲しいです。また、「子育て支援の充実に繋がりました」という文章がありますが、我々が欲しいのは、それが充実したのか、しなかったのかという事です。繋がったかどうかの成果をきちんと書いて欲しいと思います。

それでは続きまして、「第 1 章-2 保育・教育の充実」について、ご意見いただきたいと思えます。

## 委員

記載に説得力を持たすには、少し数値的なもの、効果の検証が欲しいと思います。例えば、2 つ目に「保育士等の事務改善を図り、教育・保育に携わる時間の確保につなげました」とありますが、事務改善を図ってどれくらいの時間の確保になったのか、具体的な数字がとれているのではないかと思いますので、何時間分の消失になったとか、何%の削減が出来たかということを入れていただくと説得力が出ると思います。

あと、次の記載の中に「全小・中学校にスクール・サポート・スタッフを配置しました」と記載がありますが、この表現が施策の方向性シートには書かれていなかったと思います。これも「配置した」で終わっていますが、どの程度配置したのか、例えば、人数や校数、回数などといった数値も方向性シートに書かれていないので、どの程度配置したのかという事も書いていただけるとありがたいと感じました。

## 部会長

次の「第1章-3 子ども・若者支援の充実」もそうですが、教育委員会の担当はいつも Do が多いです。語尾を見ていただいて、Do ではなくて成果にすべて書き直していただきたいというのがお願いです。

## 委員

方向性シート 38 ページ「保育や幼児教育の充実を進めます」というところで、指標が 2 つ挙がっていますが、研修への職員の参加者数という単純なアウトプットで、これを指標にして成果や問題点を読んでも繋がらないです。そもそも指標の作り方、掲げ方が、取組みをされているのだけでも、それを計るようになっていない、分かりにくいと思います。

もうひとつは 39 ページ「子どもたちの学びを高める環境づくりを進めます」で、学びを高めるとはどういうことなのかという時に、指標や成果を見ましたら、外国語の授業をすとか、オンラインや情報活用のタブレットを使った授業をされるとか、これが学びを高めるという事で良いのかなと少し疑問を感じました。

## 部会長

先ほど指摘しました「Do が多い」ということと関係しています。自分たちがやったことに対して、どれだけ成果が上がっているかという事ですが、ファクトベースでという話をいつもしていますが、それが社会に対してどのような効果が出てくるのかというところまで追って行かないといけないし、その意識が出てくると指標も変わってくると思います。特に、教育委員会は担当しているのが学習・研修という部分なので、そこでやって満足していると少しまずいと思うので、成果として何が出ているのかという事を書けるような努力をしていただきたいと思います。

ここも B 評価にした理由は、新型コロナではなくて、問題点のところから引っ張ってきて欲しいと思います。例えば、39 ページの問題点の最後「不登校児童生徒数が増加傾向にあります」というのは、今年度以降も考えていけないといけない問題だと思いますので、特記事項として問題点を抜き出して欲しいと思います。

では続いて、17 ページ「第1章-3 子ども・若者支援の充実」に入ります。

特にここは Do が一番多かったので、全面的に成果・課題ということがきちんと分かるように書いていただければと思います。ちょっとした書きぶりなのですが、最初のところでも、基本計画の答申をまとめていただいて一歩前進したということが言いたいと思うのですが、そういう書きぶりになると印象はかなり違うと思います。

## 委員

17 ページの 1 つ目に「医療的ケア児」のことがあり、ガイドブックを作成されたということですが、「作成された」で終わるのではなく、作成したものをどんな所にどのように配布したのか書いて欲しいです。ガイドブックを必要とされている対象となる層がガイドブックにつながるようにされている取組みもあると思うので、活用まで書いていただくともう少し市民に分かりやすいと思いました。

## 部会長

医療的ケアが必要な子どもではないのですが、他市では、障害の状況とそれを各学校園がどのようにケアしてきたかという事を障害児の親御さんとひとつに取りまとめをして、それを次々に渡しながらかつ共有していくというシステムを作っている。それを広げようと、親御さんがNPOを作ってみんなに広めていくような取組みをされているので、具体的にそういう事が起こっているのかどうか、ガイドブックを作って配ったところで終わっているのか、あるいはそういう実際の動きまで繋げていけているのかということをもう少し具体的に書いていただくとより分かりやすくなるのかと思います。

## 委員

豊中市ではずっとインクルーシブ教育をやっていて、全国的に注目されています。日本のインクルーシブ教育の状況があまり良くないし、インクルーシブ教育を進めていくのが大前提にあるということも指摘されている中で、豊中市がこれまでやってきたことというのを、ここで書くことではないとは思いますが、障害のある子が通常の学級で過ごしているという事に対して、昔から取り組んでいるという事を何らかの評価が出来ると思いしています。ただし、2022年度に新たに始めたことではないでしょうから、ここでは書く必要がないし、書きようがないだろうと思いますが、また何かの機会にここまできちんと取り組んできたことと、これからは医療的ケアが必要な子どもに対してより一層充実されていくという中で、これまでの積み重ねがどう活かされていくのかが示されると良いのではないかと思います。成果としてそこに全く触れられていないのは残念です。

あと、施策の方向性シートの41ページの指標は、回数や人数ばかりになっていて、特に新型コロナの影響が出ているところだと思います。回数や事業数は、2020年度は数が少なくなっていたりするので、これを出した方が良いのかどうかということも、微妙だと思います。

## 部会長

成果と問題点を先に書いてくださいといつもお願いしています。その成果を根拠とする指標とか、問題点の根拠とする指標を上を書いてくださいといつもお願いしているので、上から順番に書いていかないはずですが、下の成果と問題点をエビデンスとして証明できる指標を見つけてもらえているかが悩ましいと思っています。下から上にあがっていますかという事のチェックを、もう一度担当課をお願いしていただければと思います。

## 委員

今のインクルーシブ教育の話は、仮にですが、施策の方向性のシートの中に埋め込もうとするとどこになりますか。(1)とか(3)とかでしょうか。

## 委員

例えば42ページの「(2) 社会的援助が必要な子ども・若者への支援を充実します」に発達支援のこととかが書いてあるのでそこかなと思います。

## 委員

この後の医療のところにも関係してくるので、あらかじめとお伺いしました。まず委員がおっしゃったように、ポジティブな評価というのを入れ込む事はすごく大事なことで、これは通信簿ではなく、コミュニケーションツールなので、よくやったということも当然入っていて良いわけです。それと一般的にアウトプットの数だけを見ていただけでは分からないのですが、例えば、インクルーシブ教育をしている対象の数が増えているという状況があったとすると、その背後には積極的にそういうことを受け入れていて、親御さんも安心して預けているという事が透けて見えてきます。そういうアウトプットの数字というのは、実質的にアウトカムを証明していることになると思います。担当課もすごく誇らしげに数字を出せるはずだと思います。きちんとやっているその証拠がこの数字だというストーリーのある数字を出してもらえるのであれば、問題はないと思っています。例えば、ある望ましいシナリオに沿って、数字が伸びているとか、伸びないまでも新型コロナで少なくなっている中で、数字が横ばいになっていることは、実質、上向きのトレンドがあるのではないかと推測できるとすると、頑張っていることの証明になると思います。ですから、想定通り進んでいるから A 評価であり、また予想以上に、例えばニーズが増えて手に負えないから B 評価だという話になってくるのだらうと思います。

## 部会長

これもいつもお願いしているのですが、もっと元気が出る書き方もあると思います。誇らしげに PR することをお願いしているのですが、どうしても今まで突っ込まれないようにという習慣づけができてしまっているのではないかと思うので、出る杭はどんどん出て欲しいと思いますし、昨年始めたわけではないということであれば、書きぶりとして、例年続けている先進的な取組みは今年度も継続し、その結果きちんと成果がでていきますという書きぶりにするとか、あるいは先進的な事であれば、他市から視察が入って来ると思うので、何市から視察を受けましたとかを記載すると、エビデンスを紹介できると思いますので、工夫いただければと思います。

ついでに話をすると、エビデンスとしてあまり使わないのですが、メディアにどれだけ採り上げられたかということもとても重要です。メディアが採り上げるというのは、それだけ先進的だし、社会的に注目してもらえているということですから、そういうことをどんどんエビデンスとして出していただければと思います。

続いて第 2 章に移ります。「第 2 章-1 自立生活支援の充実」についてご意見賜ればと思います。

## 委員

最初に書いているところで「複合化した課題を抱える市民（4 件）対しては」というところと、次の「研修に 14 人が参加し、」と書かれているのですが、一般的に 4 件の課題解決と研修に 14 人参加したという数字のボリュームからすると、少ないと感じてしまいます。4 件がすごく重い数字で、14 人参加したというのも大きな成果であれば、本当に 4 件が大きな課題解決で成果であること、14 人が研修に参加したということはすごく意味があることだという事を書いてもらったほうが良いと感じました。

## 委員

今の4件という部分ですが、方向性シートの44ページでは、重層的支援体制整備事業を開始し、この事業の中の多機関協働推進会議で、国が推し進めている重層的支援体制整備事業の対象となっている非常に複雑な問題を抱えている市民を、これまでの分かれた支援ではなくて、総合的に垣根を越えてやった、そういう取組みを4件、実際に支援することができたという事だと思います。私などから見たら、着実にこの新たな事業に着手されているという感じがします。しかし、市民がこれだけいて4件と驚かれるのは、市民目線としては分かりますので、方向性シートにある1行目を入れると、専門的で市民に分かりにくいという指摘も出て来るかも知れませんが、この前振りはある方が良くはないかと思いました。

## 部会長

これも書きぶりでかなり印象が変わってくると思います。包括的な支援体制を強化した結果、このような複合化した市民のニーズに応えることが出来たわけで、逆に書いていただいたほうがこれだけ成果が出ているという印象になります。さらにモデルケースとして4件支援出来ただけけれども、4件では心許ないのでまだこの人数を増やしていくことが課題として残っていますとつなげていただくと、成果と課題がつながってきて、だからB評価だという事が見えてきます。

## 委員

具体的なこの4件に対する担当課の方々の思いというのを感じるような書き方にしていればと思います。「複雑・複合化した課題を抱える市民」にしっかりと寄り添って支援をしたという事を読んで理解ができ、そしてそこで出てきた課題や成果を次につなげるという書き方がされていると、市民としては分かりやすいと感じました。

## 部会長

一人の市民のひとつの生活がきちんとまわっていくために、様々な支援が複合的に入り込むというのは、ある意味当たり前のことですが、今までは縦割りで別々に入っていたのをワンストップで対応できるようにしたということですから、そこはもう少し分かりやすい言葉で成果を強調していただくと、頑張っていらっしゃる事がより強調できると思いますので、お願いしたいと思います。

## 委員

施策の方向性シートの44ページや45ページでは、「オンラインで」という言葉が何回か出てきます。そういったことが18ページの施策シートには全然反映されていません。コロナ禍という非常事態の中で、活動を止めなかったとか、支援を止めなかったということを出せば良いと思います。2022年度も同じようにオンラインでというのは、あまりニーズがないかも知れないのですが、とにかくそういう状況でも、来館できない人に対してもオンラインでアウトリーチ出来たということは、やはり成果だと思います。出来れば書いて欲しいと思います。



## 部会長

ここだけではなくて全体のシートだと思いますが、施策の方向性シートに書かれている内容でとどめておけば良いことは、施策の方向性シートを見たら分かるわけです。その中で、総合評価に繋がる特記事項を施策シートに抜き出していただくと良いので、先ほど委員がおっしゃったように今は調整がとれていないということと、あと全体的に書きすぎていませんかという事です。施策の方向性シートで置いておいたほうが良いものは、そこに置いておくと、施策シートがもう少しコンパクトに見えてくるのではないかなと思います。シートの役割分担を意識しながら、施策シートを埋めて欲しいと思います。

それでは続いて「第2章-2 保健・医療の充実」に移りたいと思います。

## 委員

ここに限らず、今年度はA評価に踏み込んで書いてくれているのが増えたので、言ってきたことが浸透したという気がしています。この分野については、去年、頑張っているのだからもっと堂々と書いてくださいと特に強くいった記憶があります。頑張っているのです、総合評価の理由のところに、もっと積極的な書き方があっても良いという気がします。例えば、保健師さんたちの訪問なり介入なりというのが、新型コロナの中で制約された中でも頑張ったとか、あるいは病院に関して言うと、今回問題になっているのも、新型コロナに時間を割くあまり一般医療のほうに抑圧が出ているのではないかということですが、そういうことが起きていないから頑張りましたという書き方のほうが望ましいのではないかと思います。方向性シートで言うと、地域医療ところは頑張っているはずなのでA評価で良いのですが、その証明の仕方はこの指標で良いのか疑問です。私が市民だとしたらそこではないのではないかと思います。少し気になります。

## 部会長

新型コロナが始まった当初は、マスメディアが豊中は一番課題が多いという採り上げ方で報道されましたが、それを受けて一昨年度の後半部分はかなりシステムを構築していただいたし、その成果が出ていると思います。それが順調に回り始めているという事かと思います。そういう意味でもA評価で良いと思います。それが分かるような形で表現をさらに工夫していただければ良いと思います。最後の「取組みを進めていきます」という表現は、単なる宣言になってしまっています。コロナ禍でフレイルが増加してきたことを受けて、まだまだ対応できていないので、組織としてケアの取組みをさらに充実させていきますという事だと思います。分かるような文章にして欲しいと思います。

続きまして「第2章-3 消防・救急救命体制の充実」になります。ご意見はございますでしょうか。

## 委員

これは意見ではなくて、どうしてこのセクターはいつも頑張って評価が良いのか、何かご存知でしょうか。こちらの意図がなぜこんなに浸透しているのでしょうか。

## 部会長

とてもシンプルな施策なのだと思います。消防と救急車のことなので、ここがB評価だったら市民が困るわけだと思います。そういう事もあって、ずっとA評価が続けられるのではないかと思います。

## 委員

もちろんそうなのですが、むしろ彼らこそA評価を付ける安心されては困るわけで、B評価を付けるメンタリティが本当は出てきてもおかしくはないと思うので、良いことなのですが不思議に思います。

## 部会長

まちづくりとか協働の分野で仕事をさせていただいて、消防士さんは制服が違うのでいつも存在がわかります。協働の研修やまちづくりの会合に、消防士さんはかなり積極的に入ってきてくださいます。他市の消防士さんになぜかを聞くと、予防の仕事もあるので、各戸訪問をしていろいろな話をする時に、消防に対する要望だけではなくて、市に対する要望もいろいろ聞くとおっしゃっていました。ところが消防士さんは専門職なので、一般の方におつなぎする事がなかなか出来ない。だからまちづくりや協働の現場でいろいろな知識を吸収して、より総合的な市役所の窓口としても動きたいという話をされていました。そういう意味で単に火を消しに行くとか、救急車で搬送するだけではなく、いろいろなお仕事をされていると思いますし、日々鍛錬されています。それがこういうところに反映しているのではないかと推測します。

## 委員

非常に同感で、保健師たちが同じようなところがあって、ニーズや問題点をつかむセンサーの役割を果たしていると思います。その人たちの持てる情報をフルに活用できる体制があると良いと思います。

## 部会長

保健師さんからも同じような話を伺います。やはり現場が見えているし、地域の方との協働も進んでいらっしゃるのですが、その現場の保健師さんとマネジメントしている部局の方との連携が出来ているかどうか勝負だと思います。他市の地域包括ケア推進課の課長さんは元保健師さんなので、現場が見えていて、見事にマネジメントできています。保健師さんや消防士さんの専門職が現場に出ていますから、そういう方々の情報とか力をいかに引き出すかという点がとても重要なので、この先ほどのシートに戻して言えば、消防・救急の方がもっと他の部署の方にも影響力を与えて、市役所を改革するひとつのコアになって欲しいと思っています。

## 委員

消防の訓練に参加したことがあるのですが、とても意識が高いなと思いましたし、その背景には、「救命力世界一」を言葉にして、実際それを体現しようとしている事はすごく大きいことと思っています。PDCAを回す時に、目標をしっかりと意識するという事が、いかに大事かということはここから感じ取れます。現場で市民の生命・財産を守るということを、本当に最前線でやっておられる方々

です。それが他のまちづくりや福祉とかいろんなところで活かされればと市民として思います。

## 部会長

前に戻りますが、障害児ケアでも豊中市は先進的だと話していただいたので、こういう書きぶりをしていただくととても分かりやすい。これを参考に障害児ケアの書きぶりも工夫していただければと思います。

続きまして、「第2章-4 暮らしの安全対策の充実」のご意見を賜りたいと思います。

## 委員

これを読んだ時に、表現の仕方が突然変わって、少し違和感を覚えました。最初には、防災公園の開設動画を視聴した小学生からの具体的な発言内容が記載されており、その後しばらく先には「詳細をしっかりと読まなければならないなどの声をいただきました」というようなことが書いてあり、これはたぶん具体的なことを書いた方が良かったらという事で書かれたと思いますが、他の書き方とは突然変わっており、少し違和感があります。総合評価の理由として書くのであれば、具体的な発言の内容を書くのではなくて、もう少しまとめて書いていただいた方がすっきり入ってくる感じがしますので、書き方について改善していただきたいと思います。

## 部会長

これは私の責任でもあると思います。強調したいエピソードがあれば、書いた方が私たちに伝わりますと申し上げたので、エピソードとしてこの声が挙がりましてと書いてあると思います。ただ、うまく使えていないです。例えば、「ベンチがキッチンになるなんてびっくりした」というようなお声をいただき、防災公園の意味というのがより広く市民に伝わりました」と書いていただくと、これがエビデンスとして見えてくると思うので、書きぶりだと思います。さらに言うならば、折角このエピソードが最初に書いてある割には、最後の語尾が「動画を公開しました」とか、「情報発信に努めました」で終わっているんで、これも書きぶりの問題が大きいと思います。単にエピソードを出してくるだけであれば違和感があるので、それがどの成果のエビデンスになっているかを示しながらエピソードを使って欲しいというお願いを担当課に返していただければと思います。

## 委員

A 評価ということはすごく市民としては安心ですし、このこと自体に何かを申し上げるつもりはないのですが、施策の方向性シート 54 ページを見ておりました。防災という事で注目されているところだと思います。気になったのは、災害弱者と言われるような人たちのことです。ハザードマップなどは、地域にもしっかり周知も出来ていると思いますが、高齢者の方、認知症の方、障害のある方、またはその介護をされている方など一人で避難が難しい方とか、外国にルーツのある方とか、そういった方々の問題というのは同時にすごく大きな問題としてあると思います。問題点・今後想定される事項というところで、上から3行目に「自分事と捉えて行動変容を促すような働きかけ」あるいは下の「コミュニティの希薄さ」と問題点はしっかりされていますが、今後の方針というところにそれに対する対応が全く書かれていないところが気になりました。なかなか一朝一夕に書いて出来る場所ではないと思いますし、担当の危機管理課だけの取組みではないと思いますが、今後の方針というところにぜひ対応についても書いていただくと次年度に繋がると思います。

## 部会長

この 54 ページでは問題点のところに項目が 6 つあります。今後の方針は項目が 5 つです。この数を見ただけで、一対一対応が出来ていないなと思います。きちんと問題点と今後の方針が受けられるような形で、網羅されているという事が必要です。もう一度ここに限らず、施策の方向性シート全体を改めて再点検をお願いします。

21 ページの施策シートに戻っていただいて、A 評価だから「このまま続けます」という事で良いのですが、「交通安全対策を進めます」と書いてあるので、これは書くとするれば A 評価であるけれども、こういうところがまだ今後起こってくるかも知れないので、こういうことをやりますというような書きぶりにしていただくと、より全体として繋がっていくと思いますので、書く順番とか書き方の工夫をしていただきたいと思います。

第 2 章はこれですべて終わりましたので、施策シート 30 ページ「第 5 章-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」に移りたいと思います。ご意見ございましたらよろしくをお願いします。

## 委員

文章の最後の方に、B 評価の理由をまとめて書かれているのですが、特に気になったのが「庁内における協働の意識の浸透等、今後さらなる充実の必要があるため」と書かれています。これだけを読むと、庁内における協働の意識が浸透していないということがメインになる書き方になっているのですが、施策の方向性シートの中に、この意識の浸透は書かれていなくて、庁内における協働の意識の浸透が本当の要因なのかと言うとそうではないように思います。例えば、市民参画の機会を設けるいろいろな制度があると思いますが、その制度の周知の徹底が十分でないとか、機会の創出が十分出来ていないとかというところに要因があるのではないかと思いますので、意識の浸透ではない部分も書くべきではないかと感じました。

## 委員

他の自治体と比べても、この審議会そのものも正にそうですが、市民委員がきちんと手を挙げて入ってきているので良いことだと思います。それを見ていると、市民委員を公募して参加してくれているという意味で言うと、それなりに奏功はしているのだけど、例えば女性があまり入られてないという事があつたりすると、それが課題ですという話になると思います。もちろん市の取組みが足りないからだという事だけではなくて、まだまだ社会的に女性が夜に外へ出てくるのは大変だろうという事はありますから、そこを何とかしていきたいのだともし担当課が考えていて、だから B 評価だとすると理解できる感じがします。努力は続けているけれど、社会の壁は打ち破れてないので、なお一層やらなくてはいけないから B 評価、あるいはそれは想定内だから A 評価としても良いと思います。今年取組みとして、やることはやり切ったということで A 評価にしても良いのですが、いずれにしても意識の話にしない方が良いと思います。意識の話をする、なんでも意識の話になってしまうので、少し注意をいただければと思います。

## 部会長

おそらくここから次のアクションが見えてくるのですが、意識のせいにする意識啓発しか出てこないわけですから、そういう面で見てももう少し書きぶりを充実させて欲しいと思います。私は各地でいわゆる地域自治組織の設立・運営を積極的に一緒にさせてもらっているのですが、豊中市もまだまだ出来ていないと思います。81ページの「地域自治組織設立数」が目標にはまだまだ達していないどころか、2019年度以降ほとんど増えていない状況です。これは新型コロナの責任もあると思いますが、このあたりのテコ入れがまだまだ必要だと思っています。ところが、今後の方針には、「取組みを周知する必要があります」と最後の文章がなっていますが、今後の方針なので、「必要になります」ではなく、「何々します」という文言にして欲しいですし、どうすれば8が15まで2割増出来るのかという事はしっかり考えていただき、原因と方向性をきちんと書いていただく事が重要だと思っているのですが、このあたりがうまく書き込めていないのと思います。

## 委員

先ほどご指摘のあった30ページの総合評価の理由の一番下の「庁内における協働の意識の浸透等」という事に関しては、施策の方向性シート80ページの成果の3つ目「豊中市における協働の文化づくり事業」というところが元になっているかと思われます。この「豊中市における協働の文化づくり事業」というのは、協働事業市民提案制度によってNPO法人が提案しまして、市民と行政、あるいは市民と民間、民間と行政などの協働を進めていくにあたり、共通の認識を持つという事が大事なのではないかという事で進めていったのですが、その結果見えてきたのが協働自体は様々な段階で行われているのだけれども、庁内でいろいろな部署や個人単位でその認識が違う事が明らかになったということを書いてあるのだと思いますが、まちづくりとか大きな括りの中では、確かに庁内における意識の浸透が重要なのではないかという事だと思います。ですので、この施策の方向性シートをきちんと反映した文章にはなっているのですが、そこだけ取り出して書いているという印象なので、意識の問題には落とし込まない、誤解を受けないようにここに関しては書かなくても良いのではないかという感じがします。中身を知っているので、一応根拠のある表現ではあるという事を指摘しておきたいと思います。

それと別ですが、30ページの総合評価の理由の2つ目、「広聴活動に関し」という文章ですが、語尾が「市政参画の機会が拡大しました」で終わっているのですが、これは「様々なことをやって市政参画の機会が拡大したことにより市民の参加が拡大した」ではないでしょうか。機会を拡大したことが成果ではなく、機会を増やした結果、市民の声の件数が増えたという事が成果だと思います。

## 部会長

その通りだと思います。先ほどから申し上げているように、ちょっとした書きぶりで伝わり方が違うということです。豊中は協働の分野で先進的なことがあると思うので、そこを施策の方向性シートなり施策シートで、もっとアピール出来るのではないかと思います。また担当課と協議をしていただければと思います。

これは多分、施策の区切り方の課題かと思いますが、80ページの協働の部分と81ページの地域自治の部分とが分かれているので、どちらに書くのか、またがって書くのかという問題があります。80ページで活躍されている方と81ページで活躍されている方が、まだコラボし切れていないとい

う話だと思います。80 ページに書くとする、テーマ型で活躍されている方がまだまだ地域自治のほうに踏み込んでいませんという話があります。81 ページだとすると、それが逆です。地域自治組織がまだまだテーマ型の方々を取り込んでいませんという話があるはず。そのあたりがうまく表に出てきていないという気がしますので、事実確認も含めて市民協働課などの担当部署とお話しただいて工夫していただければと思います。

## 委員

事務局の方で分かれば教えていただきたいのですが、施策の方向性シート 81 ページで、地域自治組織設立数に関して、2022 年度の目標値 15 というのは、どういう根拠があるのでしょうか。

## 事務局

現時点で把握できてないのが正直なところですが、小学校区ごとにという考えがありますので、そういう事でいくと 41 ですが、なかなかそこまではというところで 15 と設定しています。

## 部会長

2018 年度が 7 ですから、それから 2 つずつ増えていけば 2022 年度に 15 ということになります。2 校区くらいずつ増やしていきたいという思いがあったのかも知れませんが、コロナ禍の影響もあり、地元も市役所側も動けなくなっているという状況かと推測はしています。

続きまして、「第 5 章-2 持続可能な行財政運営の推進」のご意見をいただきたいと思います。

## 委員

なぜ施策の方向性の最初の 2 つが B 評価なのか良く分かりません。(1) は少しハードな市政運営に関する数字的な話で、例えば、予想以上の出費が出てしまってやばいということであれば B 評価でも良いと思います。分かりやすく言うと、基本的に B 評価というのは、やばいと感じている状況だと思います。スパークしないといけなとか、本来設定した目標に向けて相当力を入れないとダメな状況というのが B 評価です。A 評価は、一応推定どおりに動いているから、そんなに焦らなくても大丈夫という状況だと思います。マネジメントを進めようと思っていたら、想定以下の達成しか出来ていないとか、財政運営がまずいとかという事がないのだったら B 評価にする必要はないと思います。書いてあることは、色々お金がかかり、マネジメントについても反対が予想されるのでがんばりますということでしょうが、既に想定されている事だと思いますので、B 評価にする理由としては少し弱いのではないかと思います。

## 部会長

想定されていた成果がきちんと出ているのであれば、A 評価を付けてくださいという話なので、委員のご意見は、頑張っている姿勢がきちんと出ているのではないかという話だと思います。何が課題として残っているのかが施策の方向性シートを見ても読み取りにくいというご意見だと思います。事務局で何か情報はありますか。

## 事務局

まずひとつ目ですが、豊中市は黒字を続けている状況ではありますが、今後の高齢化率の上昇に伴う扶助費の増であったりや、豊中市は万博の頃に建てられた施設が非常に多く、50～60年くらい経っているものが軒並みあるというところで見ますと、単年度の決算状況で見ますと十分達成できているのではないかとというような評価をいただくのですが、財政部局としましては、やはり今後必要な財源を考えると非常に危ういと危機感を持っているという状況で、引き続き変革を通して財源の創出が必要だということで、(1)はA評価にしづらいという事です。(2)公共施設マネジメントにつきましても、将来的な公共施設の20%カットという目標に対して、なかなか達成しきれない状況で、A評価にしづらいという担当部局の思いだと思います。

## 委員

総合評価のところを書いた方が良いのではないかと思います。つまり、単年度ベースでは、ある一定順調だが、ストックに関わる部分の将来的な補修を考えた時に、決して油断できない状況だということです。総合評価に書いていただけると、市民としてはそういう状況なのかと理解ができます。あまり細かい話を書けないのは分かりますが、ある程度の概論は書いていただくと良いと思います。

## 部会長

他の施策シートでもお願いしていたと思いますが、施策の方向性シートの「問題点・今後想定される事項」というのを、あえて分けているのはきちんと区別してくださいという事です。やったけれども残されたものが「問題点」であって、きちんと達成できているけれど、今後の社会の変化や想定される事項として受け止めていけないといけないものが「想定される事項」です。先ほどの話は、「今後想定される事項」の方の話が多いかと受け取りました。単年度評価する時は、成果と問題点で評価をして、例えば公共施設マネジメントの時は、公共施設の管理計画をつくっているわけです。工程表があるわけで、その工程表でやられていることが、きちんと昨年度やるべきことはやっていたらA評価で良いと思います。ただし、今後不安があるのだったら、「今後想定される事項」で書き、さらに施策シートの中で、「A評価だけれど今後こういうようなリスクがあります。だからそれに対応していかないといけない」ということを書いていただくとすっきりすると思いました。きちんと頭の整理をしてこのシートには反映してほしいと思います。

## 委員

そういう意味でいうと、1年ごとのシートは今年の工程の自己評価だと思います。一方で、今後想定される事項というのはまだ浮上していない、あるいは既に浮上しているけれども正式にアジェンダとはなっていない問題がある、だからA評価だけれど非常にまずいという事もあり得ます。もちろんA評価を付けてしまうと、周りが弛緩してしまうという不安があると思います。やはり原則通り考えると、これは単年の工程で評価すべきだと思います。中長期的な問題は別だけれど、でも総合計画の審議会の中で話し合われている以上、別問題だからというようにほったらかしにされることはないはずです。そこは総合計画の審議会の中に入っているメリットだと私は考えています。

## 部会長

今度は基本計画を見直していくわけですが、その時にリスクはきちんと盛り込みながら工程表を作っていくかといけないと思いますので、今まで想定していたところとは少し違うことが起きているのであれば、単年度評価の時には別次元で考えていただくと良いと思います。

## 委員

先ほどの事務局の説明など含めると、31 ページの総合評価の理由の最後の3行は全然違うと思います。総合でA評価を付けるなら、こういう書き方にはならないと思います。これだと本当に持続可能な行財政運営が出来ているということでA評価になっています。先ほどの説明だと、今後は分からない。「魅力」と「行財政運営」が混ざっているので、最後の3行でそれを一緒にしてしまうのは難しいのではないかと思います。だから「都市の魅力を高め」というところは、自信をもってA評価とするならば、それは構いませんし、2つまとめてこの1シートになるのであれば、最終的にはA評価で良いですが、行財政運営に関しては、先ほどのご説明のような形で、「今後も油断できません」と入れておくべきではないかと思います。今回私たちのこの会議では、人口についてはあまり触れないという事にはなっていますが、人口が40万人を超えたという事に関しても、なぜ増えたのか、それは豊中市が魅力を何か向上させたからなのか、なぜか分からないけれど増えたのか、もしここで人口を出すのであれば、この政策評価と絡めて人口のことを書くべきではないかと思えます。

## 部会長

お話を聞きながら、もう一度施策の内容を確認していましたが、「効果的・効率的に施策を展開し、都市の価値を高めながら、持続可能な行財政運営を推進します。」という事を評価しないといけないので、ではここで「持続可能な行財政運営」というものをどのように考えて、どのように評価するかということがポイントだと思います。

お金だけで考えても別に悪くはないと思っています。結局、「効果的・効率的に施策を展開し」というのは、いわゆるメリハリ付けてお金を運用していくということです。「都市の魅力を高めていく」というのは、これで付加価値を高めていって、人を呼んだり、経済をまわしていくということで、収入面を増やすというところに繋がっているかと解釈できるので、そうすると支出をうまくカットしながら収入を増やしていって、収支のバランスをとっていって、持続的に行財政運営ができるという考え方になり、お金の計算だけできちんと説明できるのではないかという話です。そうであれば、委員がご指摘いただくように、人口の話を最後に持っていく方が良いという事です。全体のストーリーを再度確認しながら整理をしたら、この施策シートがより分かりやすくなると思えます。

## 事務局

人口と絡めているところは、少し取って付けたような見え方をするかと思いますので、ご意見として賜ります。



## 委員

今は財政状況があまり良くないけれども、いまは新型コロナの最中で、人口が伸びていく目途は立っているので、数字的なものはあまり良くないけれどもA評価だとすると、それはストーリーがあります。要するにどういう書き方をしても良いのですが、どうしてそういう話になっているのかという事がギクシャクして見えるわけです。例えば、もし先ほどおっしゃったように、結構将来的には不安だということA評価を付けるのはおかしくなります。これは単年度だから、将来の話は将来の課題に書けばいいのであって。例えばA評価にするという事は、想定通りに動いていますという事になります。危機は内在されているけれども、想定通りだし、概ねストーリー通りに動いているのでA評価ですという話になるべきで、あるいは動いていないのでB評価ですという話になるという事です。理由の力点をどこに置くかというのは、豊中市の判断でしていただければと思います。

## 部会長

では私たちの担当分は、すべて見通しましたので、また振り返りも含めて、あるいは全体的なコメントもいただきながら、もう少しディスカッション続けていきたいと思いますがいかがでしょうか。

## 委員

この評価の仕組みですが、評価がA、B、Cの三段階の評価になっています。コミュニケーションツールだという話もありましたし、やはり市民から見て、B評価やC評価がいっぱい付いている状況だと悲しいものがあるので、できるだけA評価を出して、豊中市としても頑張っているし、成果も上がってきているという事が、目に見える形になってもらえるとありがたいと思います。やはり付ける側からすると、少しA評価はおこがましいという意識になってしまうと思います。もう一段上のS評価というのもあっても良いのではないかと思います。A評価の中でもギリギリA評価のもの、余裕でA評価を通り越しているものもあると思います。A評価で満足するのではなくて、A評価を突出して、すごく誇れるような成果をあげているものがあれば、S評価というもので、もっと高みを目指して取り組んでもらいたいですし、S評価というものを取るために頑張っただけの仕掛けにもなると思います。

## 部会長

3段階が4段階になっただけで、また同じような傾向になりそうな気もしないではないです。

## 委員

毎年言っているような気がしますが、決してB評価というのは、中庸で良いという評価ではなくて、問題が生じているという時にB評価を付けるべきであって、C評価は破たんしているとか、早急にテコ入れが必要な状況であるというケースだと思います。委員がおっしゃるように、精神論でみんなA評価を目指せと言っているのではなくて、PDCAが回っている状態というのが本来の姿であって、公共組織である以上は本来回っているのが当然で、望ましいけれど、それが何らの事情で問題点が生じている、更には赤ランプが付いているという状態は、C評価を付けるというように変えていただきたいと思います。

## 部会長

これもいつもお願いをしていますが、年度当初に今年 1 年間ここまで出来ますという目標の姿、あるいは目標値が、明確であればあるほど、1 年間でここまで出来ているから A 評価と自信を持って付けられます。後から考えようとするから、分かりにくくなります。改めて年度当初に設定した目標に対してどこまで出来ているかということ、一緒に評価しましょうということなので、きちんと出来ていたら堂々と A 評価を付けてくださいという事です。でも今 A 評価だけれども、社会状況や想定されるリスクを感じ始めているという部分は「今後想定される事項」という事になるので、それは切り分けて二段構えで書いていただくとより書きやすいし、分かりやすいと思います。

## 委員

全体的なところですが、要点を絞って、全体的なところを見て分かりやすいかと言うと、全体的にボリュームが多かったです。要点を絞り切れていたかと言うと、そうでもなかったという印象を抱きます。行政の方が PDCA を回しているということに関して、市民側から見て、文脈が全体を通して見にくいと感じました。また、「持続可能な行財政運営」のところもそうですが、市民にとっては非常に大事なところだと思います。お金の話なのかどうなのかということもそうですが、シートの中から読みとれないことがあるという事が、説明責任の確保という行政評価の目的からすると、もう少し工夫が必要と感じました。一方で、職員間の目的・課題の共有や成果重視の行政運営をするためという目的もあるので、非常に難しいのだらうと思います。そういう意味で、市民委員として参加させていただきましたが、非常に難しかったという感じを抱いています。ただ、改善できる点はたくさんあるのだらうという印象も受けましたので、今後この審議が次につながれば良いと思いました。

## 部会長

施策の方向性シートで書いていただいたらそれで良く、安心していただいたら、施策シートがもっとシンプルなものになると思います。長いのは、関連部署も含めて、やっていることがどこかに書かれていないと不安というか、バランスとれないと思うので、いっぱい施策シートに持ってきているのではないと思います。もう少し施策シートと施策の方向性シートの役割分担をし、メリハリを付けていただくと、分かりやすくなると思います。

## 委員

この政策評価は、誰もが見て分かる目標があって、達成できたか否かというところだと思いますが、その目標というのが、各施策の方向性シートの中に「目標値」というのが一応出ています。ただ、目標値の設定というのが、どうしてその目標値で設定されているのかというのが分からないところがあったりします。地域自治組織がなぜ 15 で設定されているのか。各小学校区でということが推測されるということでしたが、これからコミュニティースクールをやっていくことと、これまでの公民分館活動とかと重なっているところもあると思いますが、そのあたりの整合性というのはどのように考えているのか。何らかの関係というのを見越しての 15 なのか。それとも 41 校区でそれぞれやっていって、何年経ったから 15 なのか。そのあたりに関して、それぞれの部局で説明が出来るのであれば良いのですが、見ただけでは分からないところもあります。例えば、42 ページの「子ども・若者支援の充実」だと、児童虐待相談件数とか対応件数に対して、目標値が増加になってい

ます。でも本当は、ゼロになることが長い目で見たら大事だと思います。虐待の相談が無くなる社会が目指されるべきです。もちろんここでは、支援体制が整っていて相談が出来る状況を作るという意味で、目標値を増加とされていると思いますが、単なる増加という表現で良いのだろうかと思うものはいくつかありました。成果であったり、問題点であったり、今後の方針の中で、虐待が増えて欲しいわけではないと分かるようになっていれば良いと思います。

#### **部会長**

本日、様々なご意見承りましたので、事務局のほうで内容を取りまとめていただいて、それをベースに全体会で報告をさせていただきたいと思います。

それでは最後に、案件2「その他」について事務局から説明をお願いします。

#### **事務局**

(連絡事項「今後の日程について」説明)

#### **部会長**

本日すべて終了出来ましたので、予備日は中止とさせていただきます。それではこれで、第2回豊中市総合計画審議会第一部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(以上)